

市と企業開発今夏発売

仙台産品で伊達なソフト



コメと大豆を使ったソフトクリームの試食品とトッピング

仙台市が市内で収穫された品。粉末化したコメや大豆、たこめや大豆を副原料に使用し、ソフトミックス100%のソフトクリームの新商品開発に取り組んでいる。

生産者の収益増につなげようと、地元の食品関連企業や研究者と連携。今夏の観光シーズンに、市中心部の商店街や東部エリアの集客施設で「ご当地ソフト」として売り出す方針だ。

副原料に使用されたのは主力米「ひとめぼれ」、ブランド米「だて正夢」、玄米専用米「金のいぶき」、もち米「みやこがねもち」、大豆「ミヤギシロメ」の5

ずんだなどトッピング

市の取り組みは昨年7月ごろに始まった。コメと大豆の粉末化は、食品加工を手がけるはつらつ(青葉区)が担当。ヒーターを搭載した臼式の粉砕機を使い、でんぷんをアルファ化し、混ぜたりやすいのり状にした。

コーヒードリッパーで知られる東北萬国社(山形市)が、ミックスの種類や米粉・大豆粉の配合を試行錯誤してソフトクリームに加工した。試食会の企画運営は食品卸のかね久(若林区)が協力した。

コメ、大豆 粉末で利用

米粉や6次産業化を研究し、今回の品種選定にも関わった宮城大の庄子真樹准教授は「米粉はせんべいなどにも使われる伝統的な食文化。ソフトクリームで新しい世代に興味を持ってもらうことで伝承にもつながる」と期待する。

市内の耕地面積約5800ha(2022年度)の8割ほどを水田が占め、大豆の作付面積も全国2位の県下でトッピングクラス。市農業振興課の阿部祐子課長は「参加者の意見を踏まえて商品を仕上げていく。コメ、大豆の地産地消を後押しし、担い手が農業を続けられるようにしたい」と話した。

白石高自然科学部

バイカモ保全地域と共有

2年連続全国サミットへ

県の準絶滅危惧種に指定され、白石市中心部の沢端川に自生するバイカモの保全活動に取り組む白石高自然科学部生物班が「全国高校生マイプロジェクト」全国サミットに2年連続で出場する。地域課題の解決法や取り組みを発表する大会で、生徒らは県外の人たちにも、バイカモのことを知ってもらいたい」と張り切っている。

全国3248チームがエントリーし、書類選考や地域大会を通過した48組が全国の切符を手にした。生物班は今春卒業した3年生2人を含め6人が出場する。

バイカモの保全活動に重点を置いた昨年の発表と内容を比べ、今回は地域行事に「梅花藻」の名称が採用されたり、イベントに参加



発芽実験中の水槽を眺める生物班の生徒たち。2年連続での全国サミット出場は珍しいという

保科晃さんと佐藤祐太さん(ともに2年)は「いろいろな人にバイカモに興味を持ってもらえる発表にした

い。今後、どういう活動をしたか、自分たちなりの思いも伝える場にする」と意気込む。

18日には同校で課題研究成果発表会があり、在校生や大学の研究者らの前で班の取り組みを発表する。サミットは29、30の両日、東京で開かれる。

仙台歴史文化観光シンポジウム

伊達政宗公 其の生涯と受け継がれる志

テーマ1 伊達政宗公の魅力を改めて語る



政宗の魅力 語り継ごう

仙台サン・ファン館館長講演

災害時の保育や心のケア考える

仙台でシンポジウム

災害時の保育の在り方を考えるシンポジウムが15日、仙台市青葉区のアシナガ育英会仙台レインボーハウスであった。東日本大震災で顕在化した未就学児の心のケアの問題は、能登半島地震でも課題が浮き彫りになった。研究者や現場の保育士が対応を議論した。



災害時の保育の在り方を議論したシンポジウム

東日本大震災では、被災直後より数年後に異変が現れるケースが目立った。能登半島地震で被災した石川県輪島市では、保育士の避難に伴い、各地で通常保育ができなくなった。市

ジュニア選手 言葉で伸ばす 元J2仙台 梁勇基さん講演



子どもへの接し方について講演する梁勇基さん

スポーツに取り組む子どもへの言葉のかけ方を学ぶジュニアアスリート育成セミナーが15日、仙台市泉区の仙台百全学園中・高であった。県内の自治体や競技団体、企業でつくる「スポーツコミュニケーションせんだい」(仙台市)の主催で、未就学児や小学生の保護者ら約1300人が参加した。

元サッカーJ2仙台選手の梁勇基さんが講演し、自身の幼少期や親としての経験を踏まえた子どもへの接し方を紹介。「子どもを観察し、反応を見逃さないことが大事。性格に合わせた言葉を選び、チャレンジしやすい環境をつくるのが大人の役割」と語った。

コーチングスクールなどを運営するサイタコデーネーション(東京)の江藤真規代表取締役は、子どもの主体性を引き出す言葉の選び方について講演した。なりたい自分をイメージさせる大切さや成長を支える前向きな声かけ、質問を投げかけることで気付きを促す手法を伝えた。

みやぎフイット